

鳥取大学医学部保健学科検査技術科学専攻

石 黒 尚 子*[§] 白 井 真 一*

I. はじめに

鳥取大学は鳥取県鳥取市に本部を置く国立大学で、地域学部、工学部、農学部、医学部の4学部で構成されています。地域学部、工学部、農学部は鳥取県東部にある鳥取市に位置し、医学部は鳥取県西部にある米子市に位置しています。医学部のある米子市は、東に中国地方最高峰、山陰の富士山とも呼ばれる国立公園大山(1,729m)を望みます。また、北に日本海、そして西には汽水湖として日本で2番目の大きさを誇り、ラムサール条約にも登録されている中海という、豊かな自然に囲まれています。医学部キャンパスは、米子駅から徒歩で15分ほどの中海のほとり、国史跡米子城跡(通称：城山)のすぐそばに位置しており、天

気の良い日には大山を眺めることができます(写真1)。

II. 沿革・概要

鳥取大学は1949年に米子医科大学、米子医学専門学校、鳥取農林専門学校、鳥取師範学校、鳥取青年師範学校を包括して設置されました。現在は、地域学部(地域学科)、工学部(機械物理系学科、電気情報系学科、化学バイオ系学科、社会システム土木系学科)、農学部(生命環境農学科、共同獣医学科)、医学部(医学科、生命科学科、保健学科)の4学部10学科から構成されています。入学定員は4学部合計で1,139名、在籍者は合計で5,248名(令和7年5月現在)となっています。

鳥取大学医学部保健学科は平成11年に鳥取大



写真1 鳥取大学医学部

左：米子地区キャンパスマップ 右：医学部全景 手前が中海、左手奥が大山

* 鳥取大学医学部保健学科病態検査学講座 [§] guroko@tottori-u.ac.jp

学医療技術短期大学部を改組して設置されました(写真2)。前身の医療技術短期大学部は、医学部附属看護学校及び臨床検査技師学校を改組したもので、医療技術者教育では53年に及ぶ歴史と伝統があります。看護学専攻と検査技術科学専攻の2専攻で構成されており、1学年の定員はそれぞれ80名と40名です。その後、平成16年に大学院修士課程、平成20年に博士課程が設立されました。

III. 教育理念

鳥取大学は、「知と実践の融合」を教育研究の理念に掲げ、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって平和的な国家及び豊かな社会の形成に資する有為な人材の育成と学術文化の進展に貢献することを目標にしています。

鳥取大学医学部は、「地域と世界を見据えた未来の医療を拓く人材育成」を理念として、山陰地方の歴史と伝統ある医学部として、21世紀にふさわしい医学、生命科学、保健学を修得し、これを実践できる人材を育成するための先進的な教育を行っています。そして、限らない人間愛を涵養しながら、地域社会の課題を解決し、地域の発展に貢献するとともに、国際的に活躍できる個性輝く創造性豊かな人材の養成を目指しています。

IV. 検査技術科学専攻の教育目標

検査技術科学専攻は、「生命倫理を尊重し、最先端のバイオサイエンスと生体・機能検査の技術

をそなえた臨床検査技師を養成する」を目標としています。この目標を達成するため、以下の5つをカリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)として掲げています。

- (1) 幅広い知識と確かな実践力をもった人材を育成するために、バランスのとれた教養教育と専門教育を行います。また、自律的な生涯学習力を養成します。
- (2) 臨床検査技師に必要な科目を中心にして、専門科目を体系的に学べるよう教育課程を編成します。臨床検査技術の習得につながる実習科目を充実します。
- (3) 医療人として必要な医学の専門科目に加え、コミュニケーション能力を育成する科目を設置し、他者との違いを理解し、他者を思いやる心と倫理観を涵養します。
- (4) 大学附属病院を含む地域の医療施設で実習を行い、臨床現場での体験学習を充実させます。
- (5) 最先端のバイオサイエンスや医学・医療の実際を学べる教育課程を編成します。また、課題研究など国際的に通用する問題解決能力・創造的表現力を育成する科目を設置します。

V. 検査技術科学専攻の教育

検査技術科学専攻では、目標とする学修成果を達成できるように、対話型、参加型教育を展開して能動的な学習を推進しています。1年次は鳥取キャンパスで教養科目を学び、2年次からは米子キャンパスで専門科目を学びます。実習では実際



写真2 保健学科校舎(通称：アレスコ棟)



写真3 大学入門ゼミで実施された附属病院見学

に臨床現場で使われている機器や自身の検体などを扱い、1学年約40名ということもあり、手厚いサポートを受けることができます。また、病院が併設されているため、臨床現場の近くで学ぶことができ、勉強に対するモチベーションも上がります。

1. 1 年次

鳥取キャンパスで教養科目や専門科目の一部を学びます。他学部の学生と一緒に受講する教科もあり、サークルも他学部と一緒に活動するなど最も総合大学らしい1年と言えます。1年生前期には大学での学習方法や生活の心構えを学び、同期生や先輩との交流を通じて医療人としてのマインドを育むことを目的とした「大学入門ゼミ」という科目が開講されています。この科目では看護学専攻と合同で米子まで移動して、大学のアドバイザーである先輩(学生アドバイザー)を交えたグループワークや、附属病院の見学が実施されます(写真3)。

2. 2 年次・3 年次

米子キャンパスで専門基礎科目や専門科目の講義と実習を受けます。看護学専攻や生命科学科と合同開講される専門基礎科目が多数あるため、チーム医療における役割について考えることができます。生命科学科、医学科の教員による生命医科学の講義が多数開講されていることも特徴の一つで、科学的に広い視野をもった人材を育成しています。

3. 4 年次

臨地実習、課題研究、国家試験対策、就職・進学活動など大学生活の中で最も多忙な1年です。臨地実習は、医学部に併設された附属病院とともに近隣の3施設と連携して実施しています。臨地実習前には技能修得到達度評価として、実習に取り組む姿勢、態度、手技力、知識についての演習と試験を行います(写真4)。課題研究では、未知の疑問点や問題点を自ら解決するための姿勢、技術、能力を身に着けることを目的として、教員1人に対して学生2～3人程度のグループに分かれて研究を行っています。国家試験対策としては、専用の勉強スペースの提供や、希望者を対象とした対策セミナーを実施しています。

4. 大学院

博士前期課程(修士)2年と博士後期課程(博士)3年が整備されています。博士前期課程には、高度な専門メディカルスタッフである超音波検査士、細胞検査士、認知症予防専門士、認定認知症領域検査技師に関連する演習等を設置して資格取得を支援しています。大学院修了後の進路は、大学病院、国公立病院、研究機関、医薬品メーカー、医療機器メーカー、検査センター、大学教員など通常の臨床検査技師よりも研究開発職や教育職への道が開きやすくなります。また、臨床検査技師として働きながら進学する卒業生もあり、臨床経験を活かしながら専門性を高めたい社会人の支援も行っています。



写真4 臨地実習前技能修得到達度評価の演習風景
左：血液検査 右：一般検査

VI. おわりに

日々進歩する医療や科学において、臨床検査学は重要性を増しています。本専攻では、全人的医療に求められる人間性、最新の知識と技術、科学的素養の三本柱からなる教育カリキュラムにより、医療や科学に貢献する臨床検査技師の育成を目指しています。大学での学びは、臨床検査技師の国家資格の取得だけを目標とするものではありません。倫理観、思いやり、コミュニケーション力などを身につけて、一人の人間として成長することが重要です。それにより、病院やクリニックの検査室はもちろん、健診センター、検査機器・試薬

開発の企業、教育研究機関など、様々なフィールドで臨床検査技師が活躍することが期待されます。また、医療の発展に貢献するためには、研究・開発能力が必要です。リサーチ・マインドを育むために、大学院進学という道も用意しています。大学院修了生は、本格的な研究活動を行うことで科学的素養を身につけ、科学の発展に寄与することが期待されています。

本専攻は、充実した教育カリキュラムを通して、社会の中核を担う人材を輩出してきました。主体的に学ぶ意欲を持った学生たちを、我々は全力で応援していきたいと考えています。